

## 大学の質保証に向けた第一歩

総長 増田壽男

中央教育審議会答申を受けて、政府は2008年4月に「教育振興基本計画」を決定した。この中で高等教育の重点項目の一つとして大学等の教育力の強化と質保証があげられており、その内容として「学士力」の達成を目指した厳格な成績評価システムの導入、教員の教育力向上のための実効ある取り組みが掲げられている。

本学では、これらの計画に受身ではなく積極的に対応すべく、2008年7月に「明日の法政を創る」審議会を設置し、学部教育の充実化の作業部会を立ち上げるとともに、同年11月大学評価室を設置し、自己点検・自己評価を充実させることにした。

本報告書はその最初の作業の報告である。そこでの中心課題は本学として初めての試みである、大学全体、各学部、大学院、専門職大学院、研究所、事務部門の到達目標の設定と点検評価体制の確立である。本学は過去にも自己点検報告書を作成し、大学基準協会の審査を受けてきているが、それと今回の試みは大きく異なっている。その最大の差異は、自己点検を自分たちの内部組織として行なっている点であり、この意味することは重要である。というのは、過去においては、自己点検報告書は大学基準協会の審査に対応することに重点が置かれていたが、今回は真の意味での自己点検であるからである。

今まで各部局は到達目標を真剣に考えるということあまりなかったと思われる。また各教員は自分の授業のシラバスは真剣に考え、授業評価をいかに公正にするかを考えてきたが、その集合体としての学部の到達目標の中での自分の授業の位置づけに関してはあまり考えてこなかったと思われる。しかも自分だけでなく組織として到達目標を作成し、組織としてそれを自己点検するということは、ほとんどなかったといってよいであろう。今回の作業過程で2回にわたって行なわれた自己点検懇談会での各学部の到達目標の発表と学部間のコメントにおいては、今まで気づけなかった自分の学部の問題が多くの教員によって共有されるという、新しい発見があることを、私自身もまた体験をした。評価についても様々な問題点が指摘され、これが出発となってより良い評価基準が生まれてくると思われる。

このような自己点検・自己評価が継続されることによって、各学部がどのような学生を社会に送り出すのが明確になり、個性豊かな学部が育っていくということによって、法政大学の学生の質の保証が確立することを願っている。